

OH L TRADITION FE

風にはためく

木幡の幡祭り

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(平成6年国選択)
県重要無形民俗文化財(平成4年指定)

連綿と受け継がれる
祭りのかたち

■羽山籠り(はやまごもり)

祭り前日の昼頃、屋敷内の堂社に布団と米、味噌、野菜などを持って集まります。祭りが終わるまで精進料理で肉、魚などのなまぐさは食べません。41歳以上の元老、35歳以上の中老、34歳以下の若連、初参加者の権立によって組織され、元老の中から選ばれた先達(世話人)を中心に運営されます。

■水垢離(みずごり)

各堂社にある行井戸で冷たい井戸水を素裸で浴び、身を清める行事です。桶で13杯、17杯、23杯など奇数回を浴びるのが通例。現在は堂社が交代で行っています。



■権立(ごんたち)

羽山籠りと幡祭りに初めて参加する少年を言い、一人前として扱われるための厳肅な行事です。赤色の袴(はかま)に赤及びピンクのたすき、赤色帯に臺で編んだ袈裟を掛け、太刀を腰につけ、新しいわらじを持ち幡行列に加わります。参宿所までは幡行列とともに進みますが、その後は先達案内され裏参道を上り大岩(胎内くぐり岩)に到着します。

